

# 電友会だより

(発行日)

令和二年

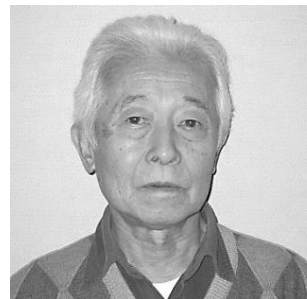
三月一日

(発行責任者)

鹿目 忠明

## 会長あいさつ

会長 鹿目 忠明 (昭和四十年卒)



昨年の総会で会長を仰せつかりました。歴代会長をはじめ、会員皆様の努力により続いている電友会が少しでも参加者が増え、楽しい会になるよう努力していきたいと考えております。会員皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

活動として、秋の定例総会があります。本部同窓会にも参加し易いよう、その前日に設定しています。議事を終了してからは、外部講師による講演会も行っています。演題は「健康」「マネープラン」等、会員の関心が高いであろうと思われることを取り上げています。

春には、「史跡探訪」を行っています。会津の歴史的建造物などの見学です。秋には、「施設見学会」として発電所や会津周辺の工場見学を行っています。また、年一回「電友会だより」を発行しています。会員の寄稿が中心ですが、母校電気科の先生と生徒にも寄稿をお願いします。現在の電気科の様子も伺えるものとなっています。

電友会は堅実に地道な活動を続けている会です。多感な青春時代の三年間を同じ学舎で過ごしたということだけで結びついている会です。これも一つの「縁」というものだと思います。この縁をさらに一人でも多くつなげて行けたらと思います。

会員皆様の益々のご発展とご多幸を祈念し、電友会が益々発展していくことを念じながらご挨拶と致します。

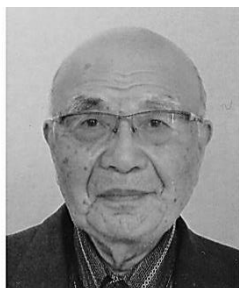


## 退任の挨拶

佐野 常雄 (昭和三十一年卒)

電友会の会長を先輩や役員の皆様方のご指導、ご協力を賜り、三年間務めることが出来ました事、厚く御礼申し上げます。

三年間の思い出は、史跡探訪で先輩の大川原史郎さんのご案内で会津の歴史・史跡や国宝の神社・仏閣の勉強会がとても楽しかったです。ただ残念なのは参加者が十名程度でありました。今後は、都合をつけてご参加くださることを切望いたします。次に私的なことですが、日常生活が笑いある楽しみが大切と思い、趣味の民謡では会津地方の目出度・磐梯山・長持唄など、秋田大黒舞は自分で謡乍ら老人福祉施設の慰問や婚礼時や祝賀会・総会のアトラクションに披露させて頂いております。ここ数年、電友会の総会にも厚かましく申し訳なく思っております。お許しください。年齢的にも八十三歳なろうとしている体力保持のために早朝散歩30分以上、6時30分のラジオ体操・10分間。朝食



後、月一回の短歌教室の詠草づくりに感動を受けた事柄をメモして歌に詠む。その日の天候の良い日には体力に合わせて、52アールの湯川米コシヒカリを管理し、畑の野菜作りの産物は、親戚・兄弟・同級生の友達に差し上げて喜ばれることを妻と二人で共に頑張っておりす。次に自己報告となりますがお許し願って「2019會工同窓会報」をご覧ください。幸いです。

私は、国宝勝常寺のある湯川村勝常地区で薬師様に見守られ乍ら育ちました。母校の小学校校歌の二番目に「朝な夕なに幾年を薬師の御手に守られて明るくさときくすこやかに学ぶわれ等の身の幸よ」と歌われております。

その境内で、毎年四月二十八日の祭礼で県指定重要無形民俗文化財の「念仏踊り」が午前11時から行われます。是非ご覧になられてください。お待ちいたしております。

最後になりましたが、電友会・会員皆様の健康とご活躍・益々の発展をご祈念申し上げ退任の挨拶とさせて頂きます。ありがとうございました。

### 《電友会の活動報告》

事務局 白井達夫（昭和四十三年卒）

#### ◇史跡探訪（六月）

令和元年の史跡探訪は、六月二十八日、会員13名の参加で会津坂下町の史跡を訪ねました。案内役は、今回も昭和三十年電気科卒で会津史学会会長の大川原史郎さんです。大川原さんには毎回詳細な資料作成と現地説明で大変お世話になっております。紙面を借りて御礼申し上げます。

以下、探訪個所の概要を紹介します（大川原史郎さんの資料を参考に記載させて頂きました）。興味のある方はぜひ訪れてみては如何でしょうか。

【会津坂下町埋蔵文化センター】所在地：会津坂下町大字青木字青木埋蔵文化財の保存と活用を図る目的で開設され、考古資料を展示室で一般公開しています。

展示室では、原始・古代・中世・近世と時代ごとに、町内の史跡や

遺跡から出土した代表的な出土品が展示されており、今回訪れる史跡の概要を学びました。

【亀ヶ森古墳・鎮守森古墳】所在地：会津坂下町青津

「亀ヶ森古墳」四世紀後半頃の築造。前方後円墳で福島県内最大（墳丘長は129・4m）東北地方で二位の規模。慶長大地震での山崎新湖形成で周囲が水没、「亀」の古墳名の由来。『新編会津風土記』に「大亀甲館」として記述。かつては中世城館の築城が知られるほか、後円部（直径74・4m）上に稻荷神社、観音堂が立地され、前方部（長さ55m・幅55・8m）は墓地利用されていた。

「鎮守森古墳」亀ヶ森古墳と一体で認知され、墳形は前方後方墳。後方部には八幡神社が立地する。墳丘長さ55・2m、後方部長さ29m、幅33・2m、高さ5・9m

亀ヶ森古墳・鎮守森古墳は昭和五十一年に国の史跡に指定されている。

【惠隆寺】所在地：会津坂下町塔寺字松原二九四四

真言宗豊山派の寺で金塔山と号し、欽明元年（五四〇）梁国の僧侶、青岩が高山寺に庵を結び、その流れをくむ惠隆が舒明六年（六三四）再建し惠隆寺と名付けたのが起源と言う。大同三年（八〇八）徳一は退廃に瀕した惠隆寺の再建に着手し、東の本寺（慧日寺）西の本寺（惠隆寺）として繁栄するが建久（一一八九）一（一九七）頃に衰退し、現在地に移転。

国重要文化財指定「木造十一面千手観音菩薩像」は、

『惠隆寺略縁起』によれば、弘法大師が一刀三拝の礼をとり、柳の御神木に千手観音の像を彫り、その樹木をもって二十八部衆、風神、



本尊立木千手観音正面像



雷神等を像立したと伝えられる。像高8・5mの一本彫りで我国最大級。

【心清水八幡神社】所在地：会津坂下町塔寺字松原二九〇八  
神社縁起によると天喜三年（一〇五五）源頼義、義家が

奥州征伐の際に戦勝祈願のため山城国の石清水八幡を当地に勧請し、同五年に竣工したという。神紋は表が菊花、裏が五七の桐である。現在の拝殿、山上の本殿は文久元年（一八六一）から三年間にわたり藩費によって造営された。会津藩として普請、最後の建造物である。国重要文化財指定の「塔寺八幡宮長帳」は、年初に神前で読誦する一部の年日記を張り付けてきたもので、貞和六年（一三五〇）から寛永十二年（一六三五）にわたる二八六年間の社会の動きや災害・異変等の記録が記されており、会津中世の歴史を知るためには、貴重な第一級の資料である。総枚数百九十七枚、幅36cm、全長120mにも及ぶので、長帳の名で呼ばれている。

歴史探訪の締めくくりは、国道49号線（越後海道）沿いの「紋平茶屋」で「手打ちそば」を堪能し、心身ともに満足のひと時を過ごしました。会津地方には「会津ころり三観音めぐり」という風習があります。一昨年は「中田観音（弘安寺）・会津美里町」昨年は「鳥追観音（如法寺・西会津町）」今回は「立木観音（恵隆寺・会津坂下町）」を巡り、満願成就・極楽往生？できる史跡探訪となりました。



### 施設見学会（九月）

今回は、令和元年九月二十五日、昭和電工（株）東長原事業所を会員10名で訪れました。この事業所で電気関係に携わっている渡部幸雄さん（昭和四十三年卒）の仲介で実現しました。

当日は、現地集合の我々の駐車場を確保するとともに正門前に関係者が待機して迎えてくれました。記念館内で窪田事業所長さんから歓迎のご挨拶を頂戴したのち、若沢総務課長さんなどから事業所紹介を受けました。

以下、同社資料などを参考に概要を紹介します。

東長原事業所は、昭和七年（一九三二）に日本沃度（株）広田工場として以前日本化学工業（株）で生産されていた塩素酸カリの製造を再開させたの後も各種除草剤、各種農薬原体、高純度薬品、各種モノマー（高分子）ポリマーを構成する低分子の単位分子などを製造してきました。現在でも、豊富な水資源による電力を活用し、エレクトロニクス・ライフサイエンス各分野へ特徴ある高品質の製品を供給しています。事業所の従業員数は約120名で会工卒が何と！三分の一を占めているそうです。

記念館での説明後は場内見学。敷地面積32万5千㎡、設備エリア4万1875㎡の広大な場内を乗用車で案内していただきました（気持は若くとも足腰に衰えを感じる我々に対する配慮に感謝）。



各種設備・施設や平成二十五年度(二〇一三)日本化学会化学遺産に認定された「白御影石電解槽」と「旧塩剝電解工場」等を見学。休憩後に、旭ダム・湯野上発電所概要DVD視聴し、記念撮影の後に、同事業所を退所しました。昭和電工(株)東長原事業所の関係者の皆さま大変お世話になりました。ありがとうございました。

楽しみの昼食は、会津村の入口に移転した「十文字屋」へ参加者全員で直行。行列のできる人気店なので平日でも順番待ち。年も考えずに会津名物ソースカツ丼に食らいつきました。

#### ◇定例総会(十月)

第二十五回定例総会および懇親会は、令和元年(二〇一九年)十月八日(金)に、会津若松市内の「ホテルニューパレス」において、会員二十七名と、ご来賓の六名を加えた三十三名で開催されました。

総会は、物故者に対する黙祷と校歌斉唱の後、鹿目忠明副会長(昭和四十年卒・会津若松市)の開会宣言で開式。中村喜美男さん(昭和四十二年卒・会津若松市)を議長に選出し、平成三十年度(期間：平成三十年十月一日～令和元年九月三十日)の活動経過報告、会計・会計監査報告。さらに令和元年度事業計画(案)・予算(案)の各議案と役員改選(案)が満場一致で承認可決されました(新役員名簿は会報の後段のページに記載)。

議事終了後には、電気科主任の永倉良正先生から、進路状況や母校の近況報告を受け、母校の繁栄と後輩の活躍に全員の大きな拍手でエールを送りました。この春に着任された永倉良正先生、ご多忙中ありがとうございました。今後も宜しくお願いいたします。



総会終了後の講演は、株式会社あいFP事務所代表取締役の菊地智恵氏を講師にお招きし、「シニアのためのマネー&ライフプラン」と題した講義で、終活の参考としました。

恒例の懇親会は、菊地進庶務役員(昭和四十七年卒・会津若松市)の司会で開会。鹿目忠明新会長(昭和四十年卒)の挨拶。ご来賓を代表して藤田晴史同窓会会長(昭和四十年卒・会津若松市)と高梨哲夫工校長(昭和五十五年・機械科卒)のお二人からご祝辞を頂戴した後、いわき会工学生会長の大川原昌之さん(昭和二十八年卒・いわき市)の発声による乾杯で祝宴に入りました。佐野常雄顧問(昭和三十一年卒・湯川村)の大黒舞の余興などで大いに盛り上がりました。

根本一雄さん(昭和三十六年卒・会津美里町)の音頭で応援歌A調、頑張れ応援歌を全員で声高らかに歌い上げ、青春の熱い血を呼び起こしました。会津若松市議会議員の村澤智さん(昭和六十二年卒・会津若松市)の中締めの後、再会を誓いお開きとしました。

〈事務局からのお知らせ〉  
次回の第二十六回定例総会は、令和二年十月十六日(金)ホテルニューパレスで開催予定です。また、本部同窓会総会は翌十七日(土)に開催予定ですので合わせてご参加ください。



## 《会工高 電気科からの寄稿》

「電気科の現在（いま）」 電気科主任 永倉 良正

昨年4月に小高産業技術高校から会津工業高校に着任して電気科の主任を務めております。若輩者で至らぬ点多々あると思いますが何卒宜しくお願いします。

さて、「光陰矢の如し」とはよく言ったもので、あっという間に1年がたつてしまったと感じています。この1年を振り返りながら電気科の現在について考えたいと思います。

はじめに今年度の電気科卒業生の進路状況です。就職は30名、県外21名、県内9名、うち公務員は1名です。就職は、ここ数年、企業の高卒者に対する求人が旺盛で、とても良好な状況が続いていることもあり、県外の企業に就職する生徒が多い傾向です。

進学は8名で、4年制大学の電気系学部3名、職業能力開発校1名、農業短期大学校1名、理美容専門学校2名、公務員受験対策専門学校1名です。

就職、進学ともに多くの生徒が電気にかかわる進路を選択したことをうれしく思うとともにこれからの活躍に期待しています。電友会の皆様にも見守っていただければ幸いです。

次に資格取得の状況です。第二種電気工事士は、平成23年度より1年生全員を上期に受験させていますが、今年度、上期で1年生32名が筆記試験と技能試験に合格して第二種電気工事士の免状を取得し取得率80%となりました。近年、取得率が低下していましたが、なんとか歯止めをかけることができました。卒業までには、第二種電気工事士免状取得率100パーセントを達成できるように引き続き指導してまいります。

第一種電気工事士は希望する生徒のみの受験とじています。今年度、昨年度の合格者11名に並ぶ、1年生3名、2年生5名、3年生3名、

計11名が合格しました。特に1年生で3名が合格したことはとても素晴らしいことです。

また、福島県高校生ものづくりコンテスト2019「電気工事部門」に、電気科1年生の齋藤朴人君が出場して第2位に輝きました。

これらの成果は、なんといっても生徒の努力の賜物であり、また、私たち電気科教員が日々積み重ねてきた教育活動の結果であると思います。

近年、福島県では工業高校の電気科を志望する生徒が少なくなってきたおり、本校も例外ではなく、中学生体験入学時のアンケートの結果でも他科に比べて人気がありません。さらには、電気を学びたくて電気科に入学してくる生徒が少なくなつたと感じており、電気科の魅力を十分にアピールできていないことにとっても危機感もっています。電気科の取り組みを積極的に発信するとともに、電気科教員一丸となつて専門科目の学習指導、特に実習と課題研究の充実を図るとともに資格指導に努め、これからの新しい社会で活躍できる工業人を育てる魅力ある電気科づくりをしたいと思ひます。

末筆になりましたが、会工電友会の皆様におかれましては、今後とも変わらぬ厚いご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

# E



**進路は多彩！  
職場で多才！**



1年生 再エネ研修



⊗ 第一種電気工事士 難関突破！ (福島民報 2020.2.21 掲載)

国家資格の第一種電気工事士は電気科の三年生三人、二年生五人、一年生三人が難関を突破した。資格取得により、住宅やビルなどの最大電力五百ボルト未満の設備で電気工事に従事できる。三年の渡部駿斗さんは「丁寧に素早く作業のできる技術者になれるよう頑張る」と意気込みを語った。

合格者は次の通り。

▽第一種電気工事士試験  
 Ⅱ飯塚広翔、道中隼人、戸塚翼、阿久津翔史、佐野寧稀、新明拓真、立石廉、津村一真、石田和哉、三留北斗、渡部駿斗

第一種電気工事士に合格した生徒

「三年間を振り返って」

三年電気科 本山なぎさ

私が会津工業高等学校の電気科に入学し、三年の月日が経ちました。長いようで短かった三年間を振り返り思ったこと、感じたことを書かせていただきます。

中学校を卒業したばかりの私達には、先輩方がとても大きく見え、新しい生活への期待と不安で胸を膨らませ臨んだ入学式を今でも鮮明に覚えています。入学してすぐに取り組んだのは国家資格である第二種電気工事士免状取得でした。電気について専門的な知識と技術がま

ったくない状態でしたが、電気科の先生方や電気部の先輩方の熱心な指導により一年生で多くの生徒が合格することができました。放課後などの時間が限られている中で課外授業を行ってくださった電気科の先生方、本当にありがとうございました。

一年生は、全てが初めての経験でした。強歩大会、球技大会、ミニ文化祭。中でも最も印象に残っているのは応援歌練習です。応援歌練習は厳しいと聞いていてとても緊張しましたが、いざ始まると先輩方がとてもかっこよく見えました。

二年生は、中堅学年として先輩を支えながら後輩を引っ張っていく立場となりとても大変な日々でした。二年生になると大きな行事が二つありました。一つ目は修学旅行です。京都と大阪を三泊四日で巡り、学級の仲間と一緒に多くの時間を過ごすことで、仲間の新たな一面を発見することができてより一層絆を深めることができました。二つ目は文化祭です。私たちの学級はスタンプラリーとeスポーツを企画運営しました。企画から運営まで様々な困難に直面しましたが、それぞれの個性を生かしながらも協力しあって乗り越え、文化祭を成功させることができました。ことはとても貴重な経験になりました。

三年生では、最高学年として、さらに進路実現に向けて一日一日を大切に生活しました。それぞれがそれぞれの目標に近づくため精一杯努力した結果、多くが希望した進路を実現すること

3年生 修養会



ができました。

私は部活動を三年間続けて、技術はもちろん、礼儀や他人に感謝することの大切さを学ぶことができました。

三年間の学校生活を通して学んだことをこれからも忘れずに立派な社会人になるために頑張っていきたいと思います。

新二年生は中堅学年として三年生を支えながらも、一年生を引っ張り、新三年生は最高学年として、また進路実現に向け一日一日を大切に過ごし、残りの学校生活を楽しんでください。

### 「二年生を振り返って」 二年電気科 安部 歩夢

私が会津工業高等学校電気科に入学してから二年がたち、三年生に進級する前に入学してから現在までに感じたことを振り返り、初心にかえって三年生を迎えられるよう抱負を書きたいと思います。

入学して最初に取り組んだのは第二種電気工事士の資格取得でした。はじめ、数多くの電気に関する専門的な知識や技術を目の前にして戸惑いと不安でいっぱいになりました。

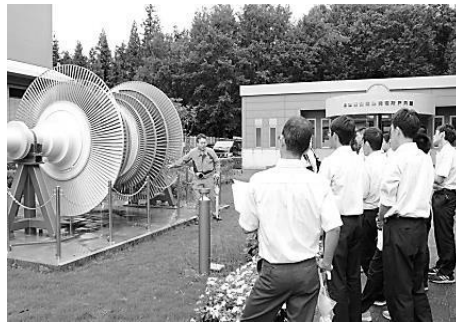
しかし、授業や放課後、何度も繰り返し学習していくといつしか戸惑いと不安も消え、第二種電気工事士の資格を取得できる自信がわいてくるとともに資格取得に向けて学級が一つにまとまっていく感じがありました。

電気科の先生、先輩に厳しくも優しく、そして楽しく教えていただいたおかげで、数多くの電気に関する専門的な知識や技術を身に付け、私たちの多くが一年生で第二種電気工事士の資格を取得することができました。第二種電気工事士の資格取得をばねに第一種電気工事士や危険物取扱者などの資格試験に挑戦していきたいと思います。

今年、二年生の大きな行事である修学旅行がありました。三泊四日で大阪、京都などを巡り、学級の仲間と協力し助け合うことよってさらに絆を深めることができました。この強い絆は三年生での学校生活できっと生かすことができると思います。

また、私はホームルーム長と生徒会書記を務めているので、最上級生である三年生になるしつかりとした自覚と責任感を持ち、一・二年

生に慕われる生徒になれるよう努力したいと思います。  
卒業までの一年間、私たちにとって残りの学校生活が悔いの残らない有意義なものとなるよう、学級の仲間同士で協力しあい助け合って、それぞれの目標とする進路を実現したいと思います。



2年生 発電所見学



2年生 実習



《会員からの寄稿》

同級会報告 第一回31E白虎会in東京

幹事 金作等・湯田 幸八

私たちの同級会は、発足以来「熊の子会」として長期期間にわたって親睦を深めてきました。しかし、会員の皆様方のご高齢に伴って「2017年度熊の子会in会津」を最後として解散いたしました。そして新たに「31E白虎会」という名称で有志の集まりという形式で同級会を継続することになりました。

この度「第一回31E白虎会in東京」を次の内容で開催しました。  
日時 十一月二十八日(木)～二十九日(金) 一泊二日

場所 午前10時30分東京駅丸の内中央口集合

12名(家族2名)の集合でしたが、沖縄在住の古川喜美男社長が体調不良となられ、皆さんとお会いしたのみで別られました。

11名で①オリンピックスタジアムの外観見学と日本オリンピックミュージアムを12時10分まで見学し昼食(フオレストラス明治神宮)②赤坂迎賓館(14時～15時半)見学。

迎賓館設立の沿革Ⅱかつて紀州徳川家の江戸中屋敷の場所に10年の歳月をかけ、明治42年(1909年)に東宮御所皇太子の居所として建設。地上二階、地下一階、幅125m奥行89m、高さ約23mと広大。

明治時代の建築家片山東熊(かたやまとうくま)総指揮の下に、当時の一流建築家や美術工芸家が総力を挙げ建設。日本唯一のネオバロック様式の西洋風宮殿建築。建物は、昭和天皇や上皇が一時お住まいになった以外、東宮御所としてあまり使用されることはなく、戦後、国に移管され、国立国会図書館、内閣法制局、東京オリンピック組織委員会など、国会や行政の機関が使用。戦後に、外国の賓客を接遇する為の施設として、五年有余の歳月と108億円の経費をかけて村野藤吾の設計で改修し、昭和49年(1974年)に現在の迎賓館赤坂離宮が完成。開館以降、国賓・公賓が宿泊し、歓迎行事や会談・晩餐会など外交活動の舞台となっている。平成21年(2009年)、創建当時の建築物の迎賓館赤坂離宮の本館等が国宝に指定された。

二日目③江戸東京博物館(9時30分～10時30分)④有明オリンピック施設・豊洲市場(10時50分～11時50分・車窓見学)昼食(六本木・東京さぬき倶楽部)⑤NHK放送博物館見学(港区愛宕・13時～14時)して解散しました。



①オリンピックミュージアム



②赤坂迎賓館



③江戸東京博物館



④有明アリーナ



⑤NHK 放送博物館



金作等

湯田 幸八

江戸東京博物館の屋上から相撲会館をバックに



## 日本総合整美(株)古川喜美男社長を語る

(昭和31年卒・同級生 佐野常雄)

猪苗代町野口英世博士と同じ旧翁島村に生を受け昭和31年電気科卒業後上京。東海大学で勉学に励み空手部で心身の鍛錬に努められた。

31歳の時に沖縄と出会った。リコー本社退社後、沖縄の電子専門学校講師として派遣された時に、沖縄の青い空、コバルトブルーとエメラルドグリーンの海に感嘆し、震えるような感動を覚えられ、沖縄の暖かい人情と風土に打たれて永住を決意されました。

沖縄の本土復帰の年・1972年に那覇市で会社を立ち上げ、今の日本総合整美(株)があります。この時に創意・熱意・誠意の「三意主義」の社訓を全社方針として明確にし、会社のバックボーンである「品質方針」、続いて「基本方針十二条」を打ち出された。ここには「顔は化粧できるが心は化粧できない。心は教養によってのみ磨かれる」等の人生訓である数珠玉の十二条が記されています。

社会に役立ち貢献できる報恩感謝の行動と精神で、日本総合整美(株)全社員が一丸となって血の滲むような努力を重ねられた。その結果、社長は「裸一貫で沖縄に来て以来『ここで生きるんだ』と決意し、努力を重ね、社員とともに社会に役立つ事業が築けていることに心から感謝している」と語っておられます。

沖縄県民の間では、48年間にわたり「沖縄の社会に役に立ち、日常生活で県民が必要としている社会事業を行っている会社」として信頼と知名度が高い会社です。

社長にとって今も心の原点となっているのが、東京の大学に行く時、会津駅まで見送りに来てくれた母の一言だったそうです。「勉強も大切だが、他人から信頼される人になれ、他人に喜ばれることをしなさい」とのこと。「母の教えは決して容易なことではなく、近道もない。悩みながらも納得できる答えを導いていく、その積み重ねだと思つた。それと同時に、それがいつしか他人の喜びが自分の喜びになっていった。今もこの母の教えが心の豊かさの原点になっている」と輝きの顔で語っておられました。

いま同社は、1300名の社員を擁する沖縄の大企業で、事業内容

は建築物の設計、施工、リフォーム、委託業務(病院、マンション等、特殊建築物の定期点検、調査報告)建築物の劣化調査診断、耐震補強、大規模修繕、マンション管理業務、宅地宅建取引業務、建物総合管理、設備保守管理、貯水槽清掃、病院医療事務請負、害虫防除、給食請負、消防設備保守管理、常駐警備・機械警備、ホテル客室整備、エスカーターベルトコーティング・・・と22事業におよび、安全安心に関するトータルソリューション会社です。

沖縄県の本土復帰以降、本業でも、業界活動でも、地域活動でも、ボランティアでも、本土出身沖縄定住者の中では、古川社長ほど日本を代表する官公庁や地元沖縄から、名誉ある叙勲や受賞、感謝状を受けた方は皆無だそうです。平成七年厚生大臣表彰以来、幾多の賞を受けれ平成二十四年には旭日双光章を賜ったことを報告申し上げます。



古川喜美男社長



日本総合整美(株)社屋

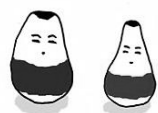
「会工電友会」の役員紹介 (任期…2019年10月～任期二年)

役職名	氏名	卒年
会長	鹿目 忠明	S40
副会長	渡部 昭寿	S34
	成田 良	S35
監事	栗城 隆彦	S36
	長谷川与一	S40
会計	近藤 信行	S40
事務局長	白井 達夫	S43
庶務	菊地 進	S47
理事	大越 一郎	S35
	中丸 茂由	S37
	藤田 晴史	S40
	渡部 幸雄	S43
顧問 (就任順)	山口 健	S29
	荒明 正義	S30
	根本 一雄	S36
	菊地 良三	S37
	佐野 常雄	S31

「会工同窓会本部役員」に就いている電気科同窓生の紹介

本部役職名	氏名(敬称略)	卒年	備考
会長	藤田 晴史	S40	本部選出
筆頭副会長	浅田 誠	S43	若松会工学生会長
副会長・参与	田中 健一	S42	東京会工学生会長
副会長	鹿目 忠明	S40	会工電友会会長
幹事	渡部 昭寿	S34	本部選出
〃	近藤 信行	S40	本部選出
〃	野中 寿勝	S50	本部選出
〃	村澤 智	S62	本部選出
〃	本名 雄一	H13	近畿会工会事務局長
〃	星 秀明	S40	福島会工会幹事長
〃	長谷川与一	S40	猪苗代会工会幹事長
幹事・監事	佐野 常雄	S31	湯川会工会幹事長
幹事	白井 達夫	S43	会工電友会事務局長
〃	高橋 誠	S60	三菱伸銅鶴友会会長
〃	徳永 正浩	S55	東京電力パワートラスト会工学生会長
参与	石川 善一	S39	近畿会工学生会長
〃	二瓶 嘉人	S39	福島会工学生会長
〃	星 武	S27	福島会工会前会長
〃	大川原昌之	S28	いわき会工学生会長
事務局	真田 郁夫	S57	会津工業高校教職員

会工同窓会報2019参照 任期:2019年10月～任期二年



会員の増加を図りましょう!  
電気科・電子科卒の知人・友人を  
お誘いください。

一報をお待ちしております。  
◎会員募集担当:47E 菊地進  
[kikuchi@kansuiko.co.jp](mailto:kikuchi@kansuiko.co.jp)  
080-5551-9941

※「会工電友会」

年会費納入のお願い

会工電友会の継続と発展のために、  
皆様方のご協力をお願いします。

年会費振込用紙が同封されている  
会員の方は、ご協力を宜しく願いたい  
いたします。

\*編集委員

佐野 常雄(昭和三十一年卒)  
近藤 信行(昭和四十年卒)  
白井 達夫(昭和四十三年卒)

鹿目 忠明(昭和四十年卒)  
菊地 進(昭和四十七年卒)

頑張れ 頑張れ 頑張れ 健男子

栄ある健児よ 理想の盾をば振りかざし

破邪の剣とりて起て 打てやこらせや

我等が敵を

勝ちて勇姿を世界に示すは この秋ぞ

奮るえや 会工の健男児

フレー フレー フレー

